



港区立高松中学校 学校だより〈第11号〉

平成30年3月1日 校長 鈿持 利行

創立1949年（昭和24年）

〈高松中生のあたりまえ〉推進校

港区高輪1-16-25

種をまく時季

校長 鈿持 利行

今年度も、あとわずかで修了式を迎えます。3年生は3月20日で卒業です。今は、一年間あるいは3年生は三年間の締めくくりの時期です。各ご家庭で、1・2年生は、この一年間に頑張ってきたことや成長が見られる点などを、人と比べることなく褒め評価してあげることで、3年生は三年間を振り返り、その努力の積み重ねや成長が、新しい進路の決定につながったことに自信をもつことで、それぞれ次年度が意欲をもってスタートできるよう励ましていただければと思います。

さて、「時季」という言葉があります。「時季はずれ」と言えば分かると思いますが、時節・季節のことをいい、英語では〈Season：シーズン〉と言います。この世の中で生きているすべてのものが、季節の移り変わりの中で成長し、一生を過ごしていきます。皆さんのような若い人は、1日（あるいは1ヶ月程度）単位で生活しているのではなかとと思いますが、年を重ねるにしたがって、半年、1年と長い単位で暮らすようになります。つまり、それだけ先を見通せるようになり、よりよい生活（人生）設計ができるのです。こうすることができるようになることを『大人になる』というのではないのでしょうか。例えば、農家の方たちは、いつどんな種をまけばよいかを知っています。まく時を間違えたら成長が遅れてしまったり、実のならない時もあります。当たり前なことかも知れませんが、季節の移り変わりを見つめながら先を読んで行動しているのです。私たちの人生でも同じことが言えるのではないのでしょうか。人間が社会生活を送っていく上で何が必要か、いつ、どんなことをしなければならないのかなど、その種をまく時があると思います。人生での潮時（しおどき：ちょうどよい時期）を誤ると、どんなに努力しても期待通りの成果が上がらないことがあります。このことは大人ならば、自分の失敗経験から知っているはずですが。

人生の種をまく時は、何と言っても皆さんの年代、つまり10代です。本を読んだり、計算力を身に付けたりという、学校での教科の学習はもちろんのこと、それ以外にも人として学ばなければならない、道徳性（人間としてあるべき態度）や礼儀作法、さらに現在では、国際化や情報化という世の中の流れにふさわしい能力やマナーを身に付けなければなりません。若いうちにそれらを習得しなければ、将来後悔するようなことになりかねません。歳月は人を待ってはくれません。人生の種をまく時季はまさに今の皆さん、中学生（高校生）の時代なのです。その時季を大切に過ごしてほしいと思います。

高松中学校 学校公開・学習展示週間

行事の多い三学期。中でも1月19日（金）～25日（木）までの一週間は学校公開週間と学習展示週間を併せて行いました。校内に飾られた生徒の作品は、どれも立派なものでした。ご覧になられた方からも「素晴らしい」とお褒めの言葉をいただきました。1年生美術の本物そっくりの野菜、2年生の夏季学園で苦勞の甲斐がみられた作品、3年生の見ごたえのある作品等、どれも日々の努力と作品に対する熱意が感じられました。作品の一部をご紹介します。



今年も高松中恒例の「席書会」「百人一首大会」を行いました。緊張した空気の張りつめた席書会、そして最後まで大いに盛り上がった百人一首大会、どちらも生徒は満喫していたようです。



席書会



百人一首大会

【学校保健委員会】 2月8日（木）

毎年、校医、薬剤師の先生方、PTA代表者、教員が集まり、生徒の心身の健康について考え情報交換を行う貴重な場となっています。校医の先生方にはまた健康診断でお世話になります



【保育実習】 3年生

毎年、3年生で行われている保育実習。今年は高輪幼稚園でクラスごとに実施させていただきました。

釣りゲーム、トランプ、かるた、こま回し、ままごと等々、幼児を見つめる3年生の表情は優しさに溢れていました。

